

## 歴史的分野研究発表

### 民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求 ～主権者の一人として、明治期の国づくりを追求する学習活動を通して～

熊本県嘉島町立嘉島中学校 教諭 中村 俊介

#### 1 はじめに

「投票率の低下」という国民の政治参加への課題を、社会科の教師になってから何度も目にしてきた。選挙権のような政治参加の権利は、国民に初めから保障されていたわけでは無く、これまでの歴史の中で、私たちの祖先が獲得してきたものである。投票率の低下という課題はこういった権利について現代社会を生きる多くの人々が行使していないことを意味している。私には以前から、将来主権者となる生徒に、世の中に関心をもち、政治参加に対する意識を高めるような授業をしていきたいという思いがあった。

令和2年度に、熊本県中学校社会科教育研究大会で歴史的分野の公開授業を行う機会をいただいた。今回の授業では、欧米諸国の近代革命から大日本帝国憲法の制定までを一つの単元として構想した。この時代は、欧米諸国を中心に、革命による主権者や議会の変化、国民の権利の獲得が各国で起こり、政治・産業の変化が著しく見られる時代である。日本における明治時代は、日本が短期間で近代化を成し遂げた特徴的な時代である。本単元を、生徒が欧米諸国と日本の国づくりを比較したり、それらの類似や差異を明らかにしたりしながら、自分を当時の国づくりを行う立場に置き替え、新たな時代の国づくりについて考えることができる単元だと捉えた。生徒が当時の国づくりを行う一人という立場で明治期の国づくりについて考える学習活動を通して、生徒の政治参加への意識を高めるとともに、民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成を図りたいと考えた。

#### 2 研究主題との関連

熊本県中学校教育研究会社会科部会では、研究主題として「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求」を掲げて研究を進めている。本研究会では、「民主主義の担い手に必要な資質・能力」を「よりよい社会と幸福な人生をつくり出すために、社会の問題に気付き、多様な他者と共に社会問題の解決に向かう態度および公正に判断する力」と捉えている。今回の単元では、近代革命によって起こった欧米諸国の国家の在り方について「主権」「議会」「人権」の3つの視点を設定し、近代国家を考える視点と位置づけた。また、生徒が当時の国づくりを行う一人という立場から、当時の日本の国づくりについて考えたり、当時の人々の思いや考えを多角的に考察したりしていく。生徒がこのような学習を経験することは、本研究会が目指す「民主主義の担い手に必要な資質・能力」の育成につながるものと考えた。

#### 3 研究の仮説

明治期の日本の国づくりについて、生徒に当時の国づくりを行う一人として、国際関係等に着目し、自分の意見を持ちながら考えさせることができれば、現在の政治についても関心を高め、国際関係等に着目し、多面的・多角的に判断し、主体的に考えようとする生徒を育てることができるであろう。

生徒たちが、民主主義の担い手となるためには、日本の政治について自分の意見を持ち、主体的に考えようとする態度を育成する必要があると考える。本単元の学習を通して、生徒が「自分だっ

たらどのような国づくりをしていこうか。」という「問い」を持ち、歴史的な事象の時期や推移、国際関係などに着目しながら、当時の国づくりについて考察する学習は、生徒の政治に主体的に考えようとする態度を育てることにつながると考えた。

#### 4 研究の視点

##### (1) 単元設計の工夫

これまでは通史的記述である教科書の内容にしたがって事実や因果関係を確認させる授業を行っていた。これに対して本単元では、生徒が「歴史的な見方・考え方」を働かせ、自分の意見を持ちながら明治期の日本の国づくりについて学習することができるよう、自分たちの「国づくり草案」を考える活動を設定した。

##### (2) 視点や立場の明確化

単元を通して「主権」「議会」「人権」という国づくりの視点を設定することで、生徒が各国の在り方について類似や差異を比較することができるようにした。また、「政府」と「国民」の立場から、明治期の日本の国づくりに対する考えや思いを類推することで、生徒の視野を広げながら明治の国づくりを学習できるようにした。

##### (3) 学びを生かす振り返り

毎時間の学びを、生徒が視点や立場を意識し、それぞれが明治の単元シート

(資料1)に記録したり、学習で使った資料を「学習の足跡」として掲示したりしながら学習を積み重ねた。生徒が前の時間までに学習したことを振り返りながら次の学習に生かすことで、主体的に学習に取り組むことができるようにした。

#### 資料1 明治維新の単元シート

「明治維新」単元シート 2年( )組( )番氏名( )

単元を通して考える学習課題 (毎時間の学習の終わりに、単元を通して考える学習課題につながる学びを記入しましょう。)

学習活動		学習活動	
1. 新政府の国づくりの方針から考える。	6. 「国民」と「政府」の国づくりに対する思いを考える。	「政府」と「国民」の立場に立ち、明治政府の国づくりについての思いや願いを記録しよう。 政府: _____ 国民: _____	
2.	7. 明治日本の憲法について考える。		
3. 新政府の政策から、明治日本の国づくりを考える。	右には、「政府」、「国民」の立場に立ち、それぞれの思いや考えについて記録していきましょう。		
4.			
5.			

「単元を通して考える学習課題」について本単元で学んだことを振り返り、書きましょう。

#### 5 研究の実際

##### (1) 単元設計の工夫

単元終了時に期待する生徒の姿 (ゴール)

近代革命によって起こった欧米諸国の変化について「主権」「議会」「人権」の視点で考察し、欧米諸国がアジアに迫ってきていたという当時の歴史的背景を根拠としながら、当時の日本が江戸末期から明治期の国づくりで、欧米諸国から受けた影響について自らの考えを表現している生徒

本単元の計画を行うにあたって、上に示したような単元終了時に期待する生徒の姿を考えた。このような生徒の姿を達成するために本単元で生徒に働かせたい「歴史的な見方・考え方」は次の3点である。

- ① 当時の欧米諸国と日本の国づくりについて、時期や推移に着目しながら、考察すること。
- ② 江戸の封建制度を振り返り、新しい日本が目指す国づくりについて、欧米諸国との類似や差異に着目しながら「2年3組国づくり草案」としてまとめ、自分の意見をもつこと。

③ 大日本帝国憲法と「2年3組国づくり草案」を比較することで生まれる「問い」をもとに、明治期の日本が目指した国づくりと欧米諸国との因果関係について考察すること。

今回、「市民革命や産業革命を成し遂げた欧米諸国がアジアに迫ってきていたということは、江戸時代以降の日本の国づくりについては無関係ではないだろう。」という生徒の声から、「欧米の近代革命は日本にどのような影響を与えたのか」という単元を貫く課題を設定した。このような課題を設定したことで、生徒が当時の国内の状況だけでなく、国際関係の視点から考えることができ、より多角的に日本の国づくりについて考えていくことができる単元構成となった（資料2）。

また、「2年3組国づくり草案」を作成する学習活動を行ったことで、本時では、自分たちが考えた国づくり草案と大日本帝国憲法との差異に気づき、明治の国づくりに対して「問い」を共有しながら学ぶことにつながった。

資料2 本単元の単元計画（一部抜粋）

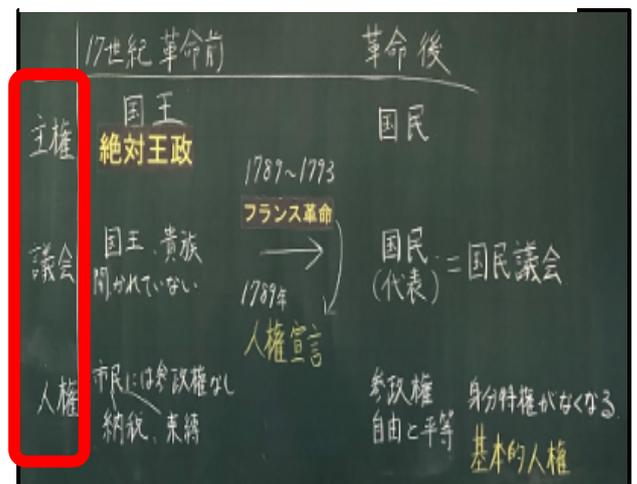
6	1	「江戸幕府の滅亡」 p158~p159 ○江戸幕府の滅亡までの過程を理解する。 ○江戸幕府の政治の課題はどのような点だったのかを振り返る。	○江戸幕府の滅亡までの過程について、理解している。 【知識・理解】 (見方・考え方) 「時系列」
7	1	「新時代の日本の国づくりを考えよう」 ○今後の日本が近代化を図るために、どのような国づくりを進めるか、「主権」「議会」「人権」の点から考える。	○開国後の日本が近代化を果たすために必要な国づくりの方向性に関心をもち、意欲的に追究している。 【関心・意欲・態度】 (見方・考え方) 「歴史的背景」
8	1	「新政府の成立」 p160~p161 ○五箇条の御誓文、版籍奉還の内容と目的について理解する。 ○これからの日本を変える具体案を考える。	○五箇条の御誓文の内容を実現している。 単元前半を振り返るとともに、後半の明治期の日本の国づくりについて「問い」をもつために設定した活動。

(2) 視点や立場の明確化

本単元では、欧米と日本それぞれの近代化を比較し、日本の国づくりを考える活動につなげるために、欧米の近代革命について「主権」「議会」「人権」という3つの視点でまとめながら学習を行った（資料3）。このことにより、「2年3組国づくり草案」の作成では、欧米諸国と江戸末期の日本の政治で学習したことを生かしながら国づくり草案の話し合いを進め、内容を決定することができた。

また、大日本帝国憲法との比較に生かすことができた。また、様々な国の「人権」という視点については、「国や時期が違っても権利というのは、歴史の中で人々が革命や運動によって獲得してきたもの。」ということに気づく生徒も見られた。

資料3 視点を明確にしたフランス革命



単元後半からは、「政府」と「国民」という大きく2つの立場を設定しながら、明治維新の様々な政策や国の変化についてそれぞれの思いや考えを類推する活動も行った。このことにより、明治の国づくりについて多角的に考察しながら学習することにつながった。

本時の学習では、欧米の近代革命と江戸時代の日本を比較しながら生徒が考えた国づくり草案と大日本帝国憲法を比較した(資料4)。大日本帝国憲法で示された「主権」と「議会」について、自分たちが考えたものと明らかに違う点があったため、生徒に「なぜ、大日本帝国憲法のような内容にされたのか」、「当時の日本にとってこの内容で良かったのか」という「問い」が生まれた。そういった生徒の「問い」が、本時の学習課題「大日本帝国憲法は、はたして当時の日本に適した憲法だったのか」につながった。

視点や立場を明確にしながらか学習を進めたことにより、本時では、「適していた」「適していなかった」どちらの主張もこれまでの学習を根拠としたものが出されていた(資料5)。「主権」については、「日本はドイツと状況が似ていたからドイツと似た政策を行った。」「当時のように国の政策に対して国民の不満が多いままではフランスのように国内が混乱してしまう。」など欧米諸国での学びを当時の日本と比較し、その類似や差異に着目しながら、根拠を明らかにして主張していた。

また、「議会」については、「選挙権が1.1%では自由民権運動を起こした人たちは納得しない。」という主張に対して、「江戸時代は、0だったものが1.1%に増えているため、当時ならば、国民の意見を尊重しようとしたと言えるのではないか。」というような、江戸時代と明治時代の日本を比較しながら、時期や推移による変化に着目した意見を出す生徒も見られた。

### (3) 学びを生かす振り返り

生徒が様々な資料をいつでも見直し、単元の流れを常に振り返ることができるよう、授業で使った資料の関連などが見える「学習の足跡」(資料6)

## 資料4 大日本帝国憲法と「2年3組国づくり草案」の比較

大日本帝国憲法		2年3組 国づくり草案	
主権	天皇	主権	国民
議会	帝国議会 (天皇を選んだ人々と国民の代表)	議会	国民の代表者(国会)
人権	「臣民」の権利 (法律の範囲内の自由)	人権	基本的人権、身分の平等 参政権、発言の自由

## 資料5 本時での生徒のワークシート

私は、大日本帝国憲法は当時の日本に  
適していた ・ 適していなかった と思います。

視点	根拠(資料)	説明に使うキーワード
主権	2	日本はドイツの政策を以てしている。
議会	4	江戸時代では0%だった →明治は1.1%になった
人権	5	民権を住民に平等の権利を与える

私は、大日本帝国憲法は当時の日本に  
適していた 適していなかった と思います。

視点	根拠(資料)	説明に使うキーワード
主権	1	フランスは国民主権にたつことにより国が大きく発展したため
議会	3, 4	国民の一部だけが投票の選挙をしかたなく、不満などがあつたため、これではだめだ(批判)
人権	5, 6	国民は、自由を求めて、自由民権運動のなごきとして、国民が自由化し、日本国にたつたことにより多くの国民の自由や平等を求めたため

## 資料6 「学習の足跡」の掲示



を掲示し続けた。これらの掲示は、前時の復習を行うといった活用だけではなく、生徒が学習を進める上で、以前の資料から根拠となるものを見つたり、歴史的事象の因果関係に気づいたりすることに生かすことができた。また、継続的に資料を増やしていくことで、毎時間の歴史学習の連続性を実感することにつながった。また、「政府」や「国民」が当時の政策に対してどのような思いや願いを持っていたのかを単元シートに残していった（資料7）。明治維新を学ぶ中で、「政府の立場から政策や大日本帝国憲法で優先したかったことは何なのか」、「国民の立場からどのような課題が残っているのか」などを考えることに生かされており、当時の政策や世の中の動きについて多角的に捉えることができた。

資料7 立場別の記録シート

政府と国民の立場に立ち、明治政府の国づくりについての思いや願いを記録しよう。	
政府	国民（立場を書きましよう）
板垣退助 西郷隆盛 大久保利通 大隈重信 伊藤博文	<p>三大改革</p> <p>地租改正で国の財政が安定</p> <p>各地に工場をつくり、技術者日本に広め産業革命を担おう！！</p> <p>憲法御誓詞</p> <p>不平等条約の改正を目的としたが、全く相手にできず、欧米列國の視察を行う</p>
	<p>三大改革を反対する一揆がたくさんあつて起こる</p> <p>国民の負担が少なくなる</p> <p>長時間労働がふえる（生活がきつい）</p>

## 6 成果と課題

### (1) 単元設計の工夫

資料8は、生徒が2年3組国づくり草案について考えた時の板書である。この時、生徒は欧米諸国を参考に、国づくり草案を考えていた。しかし、本時の学習を終えて当時の日本が植民地化を避けるために日本が優先すべきだったことに気づき、根拠を持って考察することができた（資料9）。このことから、「歴史的な見方・考え方」を働かせることができた学習だったと言える。

課題として、現代から見る歴史と当時の正しい歴史認識を生徒に育てることができるよう資料の発掘と精選の必要性が挙げられる。また、今回のような主権者の一人として政治を見ていく視点を、後の歴史的分野の学習や地理的分野、公民的分野に生かすための系統化を図ることも必要である。

資料8 国づくり草案について考えた際の板書

	江戸時代の日本	これからの日本
主権	将軍	国民 将軍への信頼が低い → 欧米と同じように 権力を一つにもたせぬ
議会	大老、老中など幕府関係者のみ	国民 三権分立 国会 法に基づいた国民の代表者 選挙
人権	身分制度 武家諸法度 武士階級の弾圧	自由 平等 身分なく 人人、迷ひとかけ分けぬ

資料9 生徒の振り返り

まとめ（今日の学習を振り返って、大日本帝国憲法は、当時の日本に適していたのか自分の言葉でまとめましよう）

当時の日本に大日本帝国憲法は、適していたと思う。理由は、アジアの国々が当時植民地化されてきて、日本は植民地にされるのを恐れ、早く国づくりを完成しないと植民地にされてしまうから。

### (2) 視点や立場の明確化

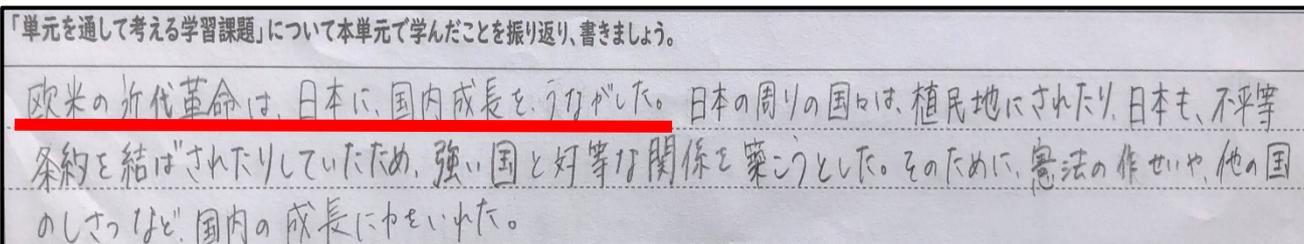
当時の日本とドイツは対して、同じ国より、弱い立場にいたから、ドイツの政策をまねして、富国強兵や徴令を行った。また、多くの外国の人たちは、政權を国民がもっていたが、日本は国民の意見を取り入れると、時間がかかるため、一部の人が天皇が政治を行い急発展をさせた。

上は、本時終了後に生徒が記述した振り返りである。本単元では、単元を貫いて「主権」「議

会」「人権」の3つの視点について単元を貫いて設定してきた。この生徒は歴史的背景だけでなく、「主権」「議会」の視点から日本の明治維新とドイツの改革に共通点を見つけることで、大日本帝国憲法が制定された意図について理解を深めていることが分かる。視点や立場を明確にした授業を行うことで、歴史的な思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりにつながると実感することができた。

課題として、単元後半では「国民」という立場を設定したが、その範囲や立場など定義づけが曖昧になってしまった。今後は「国民」など広義をもつ言葉での立場設定を避け、より明確な立場を設定することが、生徒の正しい歴史認識を育むことにつながると考える。

### (3) 学びを生かす振り返り



上は、単元が終わった後の生徒の振り返りである。「欧米の近代革命は日本にどのような影響を与えたのか」という課題に対して、明治維新における日本の成長の背景には、欧米諸国の存在が大きかったことを実感している。学習後に、単元を貫いた学習課題を振り返ることによって、国際関係が国づくりに与える影響に気付くことができていた。

課題として、本時では、「学習の足跡」を掲示したことが意見をもつための参考になっていた反面、資料の多さや議論の焦点化の難しさにつながってしまった。振り返りに使う資料の精選と取り扱いについては、生徒がよりよい学びを実感するために今後も常に意識し、改善していく必要がある。

## 7 おわりに

今回、生徒が国づくりを行う一人という立場から明治期の国づくりについて考える授業を行った。単元終了後の生徒の振り返りの中に、「大日本帝国憲法の内容は当時の日本に適していたかもしれないけど、国民の意見や自由はどうなるのか疑問に思った。」と書いていた。この生徒にとって、明治時代の日本の国づくりを学習するだけでなく、次の歴史を学ぶ上での「問い」が生まれた授業になった。

今回の授業を通して、将来主権者となる生徒が、世の中に関心を持ち、「問い」を持ちながら様々な課題と向き合い、解決を図っていく経験を重ねる学習活動が「民主主義の担い手に必要な資質・能力」の育成につながっていくものだと考える。今後も社会問題に対して主体的かつ民主的な解決を図ろうとする生徒の資質・能力を育てるために、生徒が「問い」をもち、課題と向き合い、解決を図ることができるような授業を構想していきたい。